



# 三野町総合学術調査の報告にあたって

徳島県立図書館長 福 島 啓 治

平成14年度の徳島県立図書館と阿波学会による総合学術調査は三好郡三野町で実施しました。このたび調査結果がまとまり、阿波学会紀要第49号として発行されることになりました。

三野町は県西北部の吉野川中流北岸に位置した風光明媚な町として知られています。江戸時代には6～7村あったようですが、明治22年の町村制施行で三野村として発足し、さらに大正13年には町制施行して今日に至っています。

町の面積は43.04平方キロメートル、うち山林が約70%を占めています。町北部には阿讃山脈、南部は吉野川による谷底平野が広がり、阿讃山脈と平野部の境界付近には中央構造線の断層系が東西に延びています。また吉野川にそそぐ河内谷川やその支流の大屋敷谷川、松尾谷川、大平谷川、滝谷川などの中小河川があります。

今回の調査は、7月23日(火)に結団式を行い、8月1日(木)までの10日間に17学会18調査班、134名が参加しました。もとより調査班のいくつかは、この期間以外も年間を通して調査を継続し、詳細な情報やデータを収集・分析しているところもあります。これらの調査結果につきましては、26本の論文として紀要に記載しています。詳細については本編をご覧くださいとて、特に私が気付いた点をご紹介します。

植物相班によると、今回の調査で三野町に多くの希少種を確認することができ、これらの植物が絶滅することのないよう自然環境の保護について、十分配慮することを訴えています。また水生昆虫班によると、調査地点数こそ少なかったものの、水生昆虫相が豊富であり、水質環境が良好であることを示しています。種の変動は環境の変化を現すことから、普通種にも注目する必要性を指摘しています。

一方地方史班によると、従来の史料所在調査以外に今回新たに古文書が多数確認され、これらの整理・データベース化の必要性がもとめられています。さらに社寺建築班は、神社28か所、寺院・お堂7か所を調査しました。太刀野山の出雲神社は貴重な建築物で、徳島県では数少ない江戸末期と推定される春日造りの本殿であるものの、傷みが激しいので、修理、復元を希望しています。

自然保護や歴史遺産を保存することは、国や地方公共団体の責務ですが、同時に、地域住民の理解と協力が是非とも必要です。三野町の美しい自然や貴重な歴史遺産が、後世まで伝えられることを祈っています。

最後になりましたが、三野町長さんや役場関係者の皆様、教育委員会、その他調査にご協力頂いた多くの町民の方々、調査に参加された阿波学会の皆様には厚く御礼を申し上げます。